

あんず だより

2025

VOL. 16

令和7年1月1日発行

新春対談	2
患者満足度調査結果	4
患者サポートセンターより	5
地域の医療機関の役割分担と連携体制の現状	6
はるばると一集いし人々とともに 大西益太郎伝 その16	7
外来担当医一覧表	8



診療科案内

- 内科
- 肝臓・消化器内科
- 腎臓内科
- 循環器内科
心臓病センター
- 呼吸器内科
- 糖尿病・内分泌・代謝内科
- 消化器外科
- 肝臓・胆のう・膵臓外科
- 整形外科
- 脳神経外科
- 泌尿器科
- 皮膚科
- 婦人科
- 形成外科
- 救急科
- 放射線科
- 麻酔科
- リハビリテーション科
- 歯科
人工透析センター



10月から始まったAI問診の様子

CHIKUMA CENTRAL HOSPITAL

TEL.026-273-1212 FAX.026-272-2991

URL <http://www.chikuma-chp.com>



千曲中央病院
ホームページ

新春対談

大西院長に聞く!

逸見広報委員長が大西院長に新年の抱負などについてお聞きし、地域、病院、職員に対する思いを熱く語っていただきました。



逸見委員長(以下「委員長」)

あけましておめでとございます。

2025年を迎えました。新年の抱負を大西院長先生からお聞きしたいと思い、今回は対談形式で行うことになりました。どうぞよろしくお願いたします。

大西院長(以下「院長」)

あけましておめでとございます。よろしくお願いたします。

委員長 昨年は能登地震、豪雨災害など日本各地で大きな災害があった1年でありました。また一方で、パリオリンピックでは過去最大のメダルを獲得するという、日本国民にとっては喜ばしい1年でもあり、秋には国政も大きな変化が生じた激動の1年であったと思います。千曲中央病院にとつてどのような1年でしたでしょうか。

院長 診療報酬の改定等もありまして、病院の経営的には正直言つて

かなり厳しい年だったと認識しております。

そのような中、4月には山本先生が着任し心臓病センターを立ち上げ、6月に石田先生が着任し内視鏡センターを開設、さらに7月には形成外科に宮沢先生が着任し、患者さんに提供できる診療が増えたと感じっております。

また、長年の検計事案でありました病院機能評価を取得することができ、職員のモチベーションを上げる一助になったと思っております。

委員長 昨年医療業界全体としては、診療報酬の改定や医師の働き方改革がありました。具体的に病院としては、医師の働き方改革に関して何か取り組みはされましたか。

院長 医師の働き方改革につきましては、祝日直許可を取得し、大学から非常勤で勤務している先生方の仕事をしやすくしました。

委員長 チーム医療って何でしょうか。

院長 医師、看護師だけでなく、患者さんに関係するコメディカル全てにおいて、みんなで情報共有し合つて治療にあたっていくという、そういうことがチーム医療だと考えております。それにはスムーズなコミュニケーションが絶対必要だと思えますし、円滑にコミュニケーションを取ることによつて、きちんとした情報がみんなに行き渡ると、そういうことに繋がっていくと思っております。

委員長 外来診療では、昨年A1問診を導入されたと伺いました。具体的にこれはどういったものですか。

院長 A1を使うことにより、情報をきちんと取り入れ円滑な外来運営ができると考え、昨年10月から導入し試行錯誤しながら運営中です。A1問診のメリットは、病気の症状からその主病気を適切に診断し、診察、診療を進めていくため、とても画期的なアイテムだと考えています。実際にA1問診を取り入れてみて、適切に迅速に診療ができるようになってきていると思っております。適切な運用ができるように、さらに努めていきたいと考えています。

昔ですと365日仕事をするのが当たり前ですが、働き方改革として国が正当な労働条件を認め、これに合うような形で当院も取り組んでいます。

もちろん患者さんの診療が優先されますが、その中でも適正に、なるべく負担がかからないような形で、その勤務を全うしていただくための取り組みをやっていますし、今後も続けていきたいと考えています。

委員長 機能評価の取得に関しては、具体的に機能評価というのは病院にとつてどのようなものでしょうか。

院長 簡単に言えば病院の通知表のようなものであると認識しております。各部署にマニュアルをきちんと整理することによって仕事しやすくなる。この病院はこういうところがきちんとできているということ、外部の方に知っていただくために必要な

それから、外来としては、病院の取り組みとして地域医療を進めるために、救急医療にもさらに力を注いでいます。救急搬送受診される患者さんも着実に増えてきており、さらに進めていきたいと考えています。

委員長 職員の皆様には毎日努力していただいていると思いますが、先生から一言何かございますか。

院長 職員の皆さんにお願いしたいのは、患者さんとの信頼関係を大切にしていきたい、それからスローガンでもある「情熱に勝る能力なし」をモットーに、みんなで日々邁進していただきたいと思えます。

委員長 この病院がこの地域で中核を成していくために、何が一番大切と思われるでしょうか。

院長 一般救急医療というのは絶対外せないことだと思っております。次世代にバトンタッチしても、この地域から一般救急病院がなくなるとは想像していませんし、そのためには同じ志を持った多くの仲間を集めて、「一緒に地域を守っていくことが大事だと思っております。それから、職員同士のコミュニケーションをしっかりとするために、きちんと報告、連絡、相談ができることが



ツールだと思っております。取得できたことに関しては、職員の皆さんの努力に感謝しております。

委員長 今年抱負についてお伺いしますが、何か考えていることはありますか。

院長 人材育成です。特に事務系も含め、次世代のリーダーの育成に努めていきたいと思えます。

また、コロナ禍で中断した市民のための健康講座や病院祭による地域住民への啓発活動を再開したいと思っております。

委員長 来年、千曲中央病院は創立80周年を迎えます。今年1年、

職員にとつて働きやすい環境になっていくと僕は思っています。

委員長 最後に先生のプライベートのことをお伺いしたいんですが、趣味などはありますか。

院長 還暦も近くなつてきていますし、コロナ禍以降何かやるということはありませんが、バーベキューしたりすることが好きです。

僕の知り合いも健康管理のために自転車に乗っている人がいます。僕も見習つて何か趣味を見つけたしたいと思います。

委員長 今年の抱負など院長先生にお伺いさせていただきます。

本日は本当にありがとうございます。院長 ありがとうございます。



広報委員長・当院副院長 逸見 一之
広報委員会委員長として、今回聞き手として対談。趣味は自転車、1日に40Km 走ることもあるそうです。



患者サポートセンターより



9月1日より1階投薬窓口前に患者サポートセンターを移転・開設しました。

患者サポートセンターは「医療従事者と患者さんとそのご家族の対話の促進」を役割とし、患者さんやそのご家族の方々を支援することにあります。ここでは当院における患者サポートセンターの「今」と「この先」のお話をさせていただきます。

「今」患者サポートセンターは当院に来院された患者さんやご家族が外来、入院から退院、在宅療養までの流れの中での「なぜ?」や「お困りごと」に対応しています。また、入院や転院された方の不安を減らし、スムーズに療養生活に入れるお手伝いをしています。

「この先」は、退院や在宅までの「なぜ」や「お困りごと」、「不安」に寄り添えるよう、様々な職種と協働しながら歩みを進めていきます。

来院された際には、お気軽にお立ち寄りください。



松本副院長 優秀専門臨床医として認定

松本副院長がドクターオブドクターズネットワークにて優秀専門臨床医として認定を受けました。

松本副院長は、「ドクターオブドクターズネットワークより「肝臓病域における優秀専門臨床医」として拝命を受け、その名に恥じぬよう、精進してまいりたいと思います。」と決意を述べられています。

肝臓で気になることがありましたら、是非お尋ねください。



田口前施設長さん ご寄附ありがとうございました

平成11年7月1日からおよそ25年にわたり当院及び介護老人保健施設ひまわりにて勤務され、昨年度で退任された田口良雄前介護老人保健施設ひまわり施設長よりご寄付をいただきました。

これまで多大なご尽力をいただいた上、ご支援いただいたことに職員一同心より感謝申し上げます。

頂戴いたしましたご寄付は、病院、ひまわりにて地域医療に貢献するため大切に使用させていただきます。



病院からの感謝状を受け取られた田口先生ご夫妻 (左側は大西理事長)



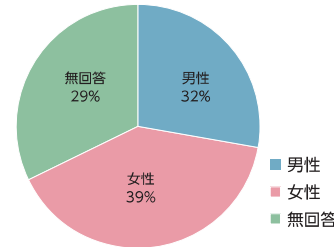
患者満足度調査の結果(外来編)

2024年8月、患者さんを対象に当院の医療サービスについて調査しました。

今回の調査を通じて皆さまからいただいた評価を参考に、より質の高い患者サービスの提供を目指して改善に取り組んでいます。

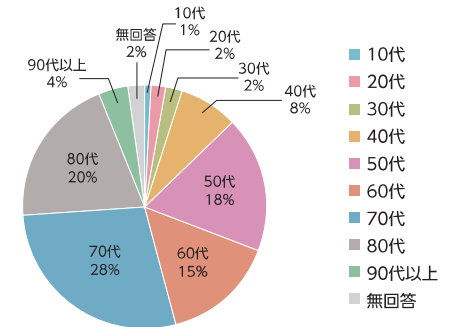
アンケートにご協力をいただきました皆さま、ありがとうございました。

●性別



性別	人数
男性	102
女性	143
無回答	116

●年齢



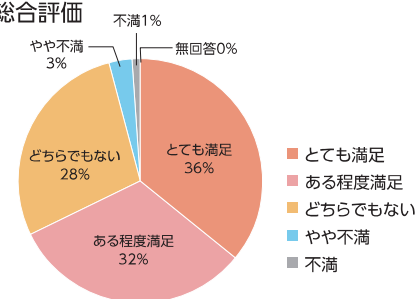
年齢	人数
10歳代	4
20歳代	7
30歳代	8
40歳代	28
50歳代	65
60歳代	55
70歳代	102
80歳代	71
90歳代	14
無回答	7

(単位:人)

(単位:%)

項目	とても満足	ある程度満足	どちらでもない	やや不満	不満	無回答
1. 診察までの待ち時間について	19.7	24.7	26.3	21.3	7.5	0.6
2. 診察時間について	39.1	34.1	19.7	5.0	1.4	0.8
3. 医師の診察・治療内容はわかりやすかったか	58.4	28.0	9.7	1.9	0.3	1.7
4. 医師に質問や相談をしやすいか	60.1	26.9	9.7	1.9	0.6	0.8
5. 看護師に質問や相談をしやすいか	39.3	25.8	19.9	1.1	0.3	13.6
6. 事務職員に質問や相談をしやすいか	40.2	28.5	21.3	2.5	1.1	6.4
7. その他(技師など)質問や相談をしやすいか	34.9	24.1	17.2	2.5	0.3	21.1
8. 痛みや症状を訴えた時対処してくれたか	31.6	26.0	15.5	0.8	0.3	25.8
9. 心配事や不安に対して相談しやすいか	42.9	28.3	18.6	1.9	0.6	7.8
10. 院内のプライバシー保護は十分だと思うか	41.3	31.0	19.4	2.8	0.3	5.3

●総合評価



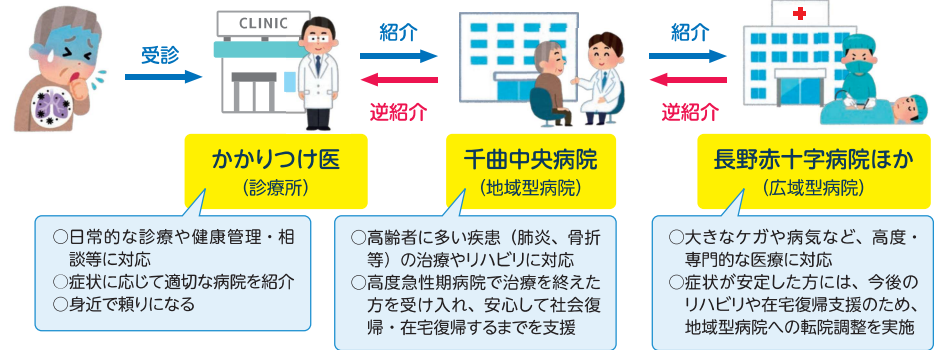
●自由記載内容(抜粋)

職員の接遇	●看護師さんが、とても親切に対応くださり感謝しています。
改善点	●診察後の会計での待ち時間がかかりすぎる。

貴重なご意見をありがとうございました。この調査結果をもとに、更なるサービスの向上に努めてまいります。

地域の医療機関の役割分担と連携体制の現状

地域の医療資源は限られているため、各医療機関は役割を分担し、連携して地域医療を支えています。



「地域型病院」である 当院の役割



千曲中央病院 (地域型病院)

【当院の役割】

- ・千曲中央病院は長野県が策定した「医療提供体制のブランドデザイン」の中で示された地域住民の暮らしを支える「地域型病院」として、今後も千曲地域の地域包括ケア体制を支える役割を担います。
 - ①早期治療を目指す**急性期病床**
急性期病床は、外傷・手術・感染症など集中的な治療を行い状態の早期安定化に向けた医療を提供します
 - ②在宅復帰を目標にリハビリテーションを行う**回復期病床**
回復期病床は、急性期の治療後に、すぐに在宅や介護施設に移行するには不安のある方などを対象に、患者さんご家族と一緒にリハビリ計画を考え、幅広い専門職種のスタッフにより、患者さんが安心して住み慣れた地域で生活できるようサポートします
 - ③長期にわたり療養が必要な患者が入院できる**療養病床**
療養病床は、寝たきりの方など常に医療・介護が必要だが在宅では対応が難しい場合に長期間の療養生活を提供します
- 必要ときに適切な医療を提供し、患者さんの状態にあった病床を選択することで、急性期の治療から在宅復帰までを継続して支援することを目指しています。

住民の皆様をお願いしたいこと ~上手な医療のかかり方を心がけましょう~

医療機関を受診するときは、まずは「かかりつけ医」を訪れることをお勧めします

具合が悪くなった時など最初の医療機関を受診する際に、とりあえず大きな病院には設備が揃っているし医師も多いから安心だろうと訪れたら長い待ち時間にうんざりした経験はありませんか。

確かに大きな病院には治療機器があり専門医も多いですが、それは高度で専門性が高い医療を提供する役割を担っているからです。患者さんの状態に応じた質の高い医療を効果的に提供できる体制を構築するため、医療機関は役割を分担しています。

「かかりつけ医」に相談を

かかりつけ医とは、日常的な診療や健康に関することを何でも相談できる身近な医師です。診療所は大きな病院と比べると待ち時間は比較的短いところが多いです。体調の変化や症状が気になるときなど、まずはかかりつけ医を受診しましょう。入院や検査が必要な場合は、大きな病院や専門医を紹介します。

上手なかかり方をすることで医療費や待ち時間、さらには医療機関の負担も軽減されます。

かかりつけ医が休診等で連絡が取れない場合は、こちらも利用できます。

長野県救急安心センター

#7119

各種のアドバイスが受けられます。

小児の緊急相談は24時間無料受付

緊急時は迷わず119番

「選ばれる」と「集いし人々とともに 大西益太郎伝」(その十六)

著者・清水 協 (1906年7月1日発行)

千曲中央病院創始者 大西益太郎氏の伝記です。清水協氏の執筆により一九九六年七月一日に発行されました。シリーズとして掲載しておりますので、「要読必読」です。

※表記や地名は発行当時のまま

第二章 学窓の頃

―旧制松本高校・東北帝大時代―

二 挫折と出会い アルバイトと恋と 純愛

彼には、加代が話に加わってからの場が急に明るく活気に満ちたように感じられた。愉快だがまだ子供の良子や、家業の苦しさからか時々暗さを漂わす母親らと違って、当時の花形職業婦人のように、モダンな雰囲気、周囲の者達を引き込むだけの魅力に満ちていた。特に益太郎と加代とは、歳が近いうえ互いに同じ街に学んだという身近さもあった。妹の良子がふくれるほど話が弾んだ。もともと彼は、回転の早い加代の話の前に、八割方聞き役となっていたのであるが。

実際、地主で種屋という経世家の要素も含む事業家の家に育ち、当時の女性運動の息吹にも触れている加

代の話は、からりとした男性的な機知を備えていた。

「ねえ大西先生、私達の学校のある街って、正反二つってこと御存知？」

会話はこんな切り口で始まって、次のように続く。例えば街の商家の人達は親切だけれど、はしっこいので要注意なこと。ある女性運動家が学生の頃街に来て、友人の家に泊まった時「二日目に極上の布団だったので感激したら、あなたのお家からよ、ともいってお家柄だって判ったからよ。」と打ち明けて愕然としたこと。学生好き、学問好きもこの類のことがあるから心しない等等。こうした皮肉が厭味に転落しないのは、教師をめざす彼女の前向きな生き方由来することを、益太郎は間もなく悟るのである。

「ねえ大西先生、松高のようなエリートの子供さん達は御存知知らないけど、今長野県の初等教育は素晴らしい考え方に満ちていますよ。」

―それは白樺のことですか。―

益太郎が難なく応えると、加代は

嬉しそうに続けた。

「そう。私が女子師範へ入って良かったのは、一にも二にも白樺運動」

―ほら、また姉さんの白樺かぶれが始まった。―

加代は混ぜ返す妹の声を聞かぬ素振りでは、当時長野県の教師達の間に広まっていた白樺運動について、熱っぽく話し始めた。

白樺運動とは、武者小路実篤らの創刊した雑誌「白樺」を愛読する信州の教師達が、人間主義・人道主義をかかげて行った大正時代の自由教育運動だった。子供達の自発性や個性、自我を重んじ、旧来の教育の殻を打ち破ろうとするその運動は、加代が女子師範に学んでいた当時も多くの教師達の間に浸透し、実践されていた。彼らは大正三年からその頃に至るまで、武者小路らの講演会を開催したほか、岸田劉生、ロダン、ウィリアム・ブレイクなどの絵画・彫刻・版画の展覧会を開くなど、運動の主旨となる考え方や感性の普及に努めた。また、教生子に対してもトルストイ、ロマン・ロラン、良寛、島崎藤村らの作品をプリントして教材とし、鑑賞や創作などを通じて個性を育もうとした。しかしこの運動は、当時の国家主義的な教育方針とは食い違いため、一種の危険思想とみなされつつあった。実際にこの頃、県内各地の小学校では、当時の文部行政の意を受けた弾圧事件が毎年のように繰り返されていた。この出会い

の翌年には、後にも触れるように加代にも衝撃を与える「川井訓導事件」が起きている。

「……今も私たち、付属小の先生方と一緒に『自由教育研究会』っていう集まりをやっています。私も前は、小学校の教師なんて『でも、しかし』だと思っていましたけれど、すっかり目が覚めて。教師の素晴らしさ、初等教育の大切さ。これこそ生涯かけてもやるべき仕事と思っています。そうそう、そういうえば昨日借りた同人誌、とっても素晴らしくって、何度か何度も読み返して。あ、ちょっとお待ちになって。今持って来ますから！」

(注) 天学を出て就職がないから先生にもなるか「先生にしかなれない」と言うように、教師という職業を擁護した言ひ方。

と云って立ち上がると、そのまま小走り隣の部屋に入っていた。

「ほんともう、夢中になるとそれっきり！」

苦笑する母親をよそに、益太郎の胸は高鳴った。

こんな小さな田舎の町で、思いがけず話の出来る相手を得られた喜びと、喜びとなるものを得たのであった。

益太郎が、夏季休暇を田中の町で過ごすことに決めたのは、言うまでもなかった。

(続く)

あんずだより 令和七年一月一日発行／長野県千曲市杭瀬下五八番地／特定医療法人財団大西会千曲中央病院／発行責任者千曲中央病院理事長・院長 大西禎彦 TEL.026-1273-1122 FAX.026-272-2991

診療科	専門		月	火	水	木	金	土 ※午前のみ	
内科	一般内科	午前	富松	植田(漢方外来) (第2・4週のみ)(受付10:30まで)	松本(史)				
		午後	富松(新患のみ)						
	消化器	午前	窪田 石田	宮林 瀏野	窪田 瀏野	宮林(肝臓外来) 石田		宮林・窪田 松本(晶)	
		午後	石田	昭和大医師	昭和大医師 (受付16:00まで)	宮林(紹介のみ) 松本(晶)	松本(晶) 石田		
	内分泌代謝	午前		久保田	横田	春日(予約のみ)	関戸		
		午後	山内 (受付16:00まで)	久保田 (受付15:00まで)	横田 (受付15:00まで)	春日 (予約のみ)	横田(受付15:00まで) 関戸(受付15:00まで)		
	腎臓	午前				大西禎彦	大西禎彦		
		午後	大西禎彦						
	呼吸器	午後のみ		神田(第2・4週のみ) (呼吸器内科)		小林(第2・4週のみ) (呼吸器外科)		津島(第4週のみ) (受付11:00まで) (呼吸器内科)	
	循環器 心臓病センター	午前	山田(10:00~) 山本	富松	東海	東海 山本	佐々木	佐々木 山本(第1・3週のみ)	
		午後	山田 山本		東海(予約のみ) 太田(受付16:00まで)	山本	村田 (受付16:00まで)		
	外科	一般外科 消化器外科 肝胆膵外科	午前		長谷川 大久保		加藤(予約のみ)	長谷川 大久保	大久保(肝臓外来/ 予約制第3・5週のみ)
			午後						
	整形外科	一般整形	午前	原田	江崎	小林		奥田	信大医師 (受付11:00まで)
午後			原田 (受付16:00まで)	江崎 (受付16:00まで)	小林 (受付16:00まで)		奥田 (受付16:00まで)		
膝・股関節		午前	森岡(9:30~)		森岡(9:30~)				
		午後					森岡(予約のみ)		
脊椎脊髄		午前		矢澤		矢澤(予約のみ)	矢澤		
上肢	午後				磯部(第2・4週のみ)				
脳神経外科		午前	市川	市川	斎藤 飯島(予約のみ)	市川	市川	日赤医師 飯島(予約制/ 第1・3・5週のみ)	
		午後	飯島	飯島	斎藤	飯島			
泌尿器科		午前	逸見 (予約外の受付11:00まで)	逸見 (予約外の受付11:00まで)		逸見 (予約外の受付11:00まで)	逸見 (予約外の受付11:00まで)	逸見(予約のみ)	
皮膚科	完全予約制	午前	今井	今井	今井	今井			
		午後	今井(受付15:00まで)		今井(受付15:00まで)	今井(受付15:00まで)			
婦人科	完全予約制	午後					山本(14:00~16:00)		
形成外科		午前		宮澤 (第1・3・5週のみ)	宮澤	宮澤	橋本 宮澤	橋本 (受付11:00まで)	
		午後		宮澤(予約のみ)	宮澤(予約のみ)	宮澤(予約のみ)	宮澤(予約のみ)		
救急科		午前	飯島・岡田						
		午後	飯島・岡田						
歯科		午前	大西聖彦・大西真理						
		午後	大西聖彦・大西真理						

- 午前受付 8:00~12:00
- 午後受付 12:00~17:00
 【午前診察】 9:00~
 【午後診察】 14:00~ ※土曜日は午前中のみ
- 急患等でお待たせする場合がありますが、その際にご容赦ください。
- 休診日：日曜日・祝祭日、第2土曜、第3木曜、年末年始、7月1日(創立記念日)
- 医師の都合により急遽休診・変更となる場合がございますので、ご了承ください。
- 予約および予約変更の受付 月~金曜日 15:00~16:00(歯科は除く)